

指導資料



鹿児島県総合教育センター

社会 第125号

—小学校、特別支援学校対象—
平成26年10月発行

鹿児島学習定着度調査を生かした小学校 社会科の授業改善

これまで実施してきた「基礎・基本」定着度調査は、平成25年度から鹿児島学習定着度調査と変更された。知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するために、結果の集計を「基礎・基本」と「思考・表現」に分けて行うこととされた。また、児童生徒の学習状況調査も行われることとなった（資料1）。

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。（後段省略。下線は筆者加筆。）

資料1 平成25年度鹿児島学習定着度調査の趣旨目的

ここで、小学校第5学年社会科の問題別・観点別の平均通過率を表1に示す。

表1 小学校第5学年社会科の平均通過率(%)

基礎・基本	73.2	社会的な思考・判断・表現	66.3
思考・表現	66.3	資料活用・技能	69.2
全体	70.9	知識・理解	76.3

全体として、通過率は7割を超えており、特に「主として『基礎・基本』に関する問題」の通過率は、73.2%と、おおむね定着が図られている。一方で、「主として『思考・

表現』に関する問題」については、7割を下回っており、思考力・判断力・表現力が十分に身に付いているとは言えない状況にある。

そこで、本稿では、鹿児島学習定着度調査において、特に、「主として『思考・表現』に関する問題」で通過率が十分でなかった問題を取り上げ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成を図るには、どのような授業改善を行えばよいのかについて述べる。

1 社会科において、思考力・判断力・表現力を育成する意義

「小学校学習指導要領解説社会編」（以下、「解説」という。）には、社会科における思考力・判断力・表現力について、以下のような能力であると示されている。

- 地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力（第3・4学年）
- 社会的事象の意味を考える力、調べたことや考えたことを表現する力（第5学年）
- 社会的事象の意味を、より広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力（第6学年）

また、社会科における思考力・判断力・

表現力をどのように育てるのかについて、次のように示されている。

- （調べたことを）比較，関連付け，総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。
- 社会的事象を多面的，総合的に捉え，公正に判断することができるようにするとともに，個々の児童に社会的な見方や考え方が養われるようにする。
- 根拠や解釈を示しながら，図や文章などで表現し説明することができるようにする。

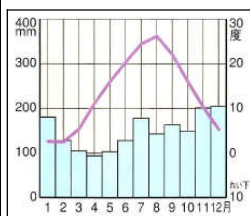
したがって，調べたことを比較したり関連付けたりして社会的事象の特色や意味を考え，公正な判断ができるようにするために，根拠や理由を文章等で表現することは，教科目標である，「公民的資質の基礎」を養う意味からも意義あることである。

2 鹿児島学習定着度調査問題及び結果から

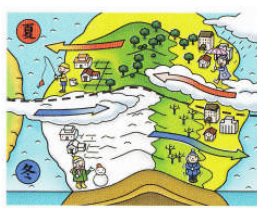
(1) 学力調査問題及び出題の意図

「主として『思考・表現』に関する問題」例と出題の意図を次に示す。

新潟市では，夏より冬の降水量が多いことがわかります。その理由について，資料2を参考に「季節風」と「山地」という言葉を使って説明する文を，の中に書きましょう。



(資料1) 新潟市の月別平均
気温と降水量



(資料2) 季節風と山地の
関係

※ 正答率… 42.7%

この問題を解答するためには，まず，「冬の冷たい季節風が山地にあたって雪を降らせるという仕組み」や「新潟市が日本海側に位置していること」などの知識や理解が必要である。

次に，「新潟市の冬場の降水量が多いのは，降雪の多さが主な原因であることをグラフ等の資料から読み取っていること」など，資料活用の技能を駆使して情報を読み取ることが必要となる。

その上で，社会科における思考力・判断力・表現力を発揮し，これらの知識や読み取った情報を相互に関連付け，国土全体の地形や気候の大まかな様子や特色について説明できることが求められているのである。

(2) 学習状況調査結果から

社会科における思考力・判断力・表現力を育成するために，児童が主体的に言語活動に取り組むことが求められているものの，授業においては，資料2のように，先生の説明を聞く活動が，21.2%と他の項目に比べて高くなっている。

日頃の授業では，どんな活動をする人が多いですか。		
	回答（選択肢）	小5
1	先生の説明を聞く。	21.2
2	学習の手順や方法を考える。	4.1
3	実験や観察，見学など，体験をする。	2.1
4	課題について，調べ学習をする。	15.4
5	自分でじっくり考える。	7.3
6	自分の考えを文章にまとめる。	4.2
7	問題をといて，答え合わせをする。	4.1
8	ペアやグループで，考えを出し合ったり教えあったりする。	8.8
9	自分の考えや資料をもとに，話し合う。	17.7
10	お互いに発表したり，説明したりする。	6.7
11	プリントや問題集でたくさん練習をする。	4.9
12	学習ゲームをしたり，学習クイズをしたりする。	3.2

資料2 学習状況調査結果（抜粋）

「課題について，調べ学習をする」，「自分の考えや資料を基に，話し合う」などの項目は高くなっているものの，

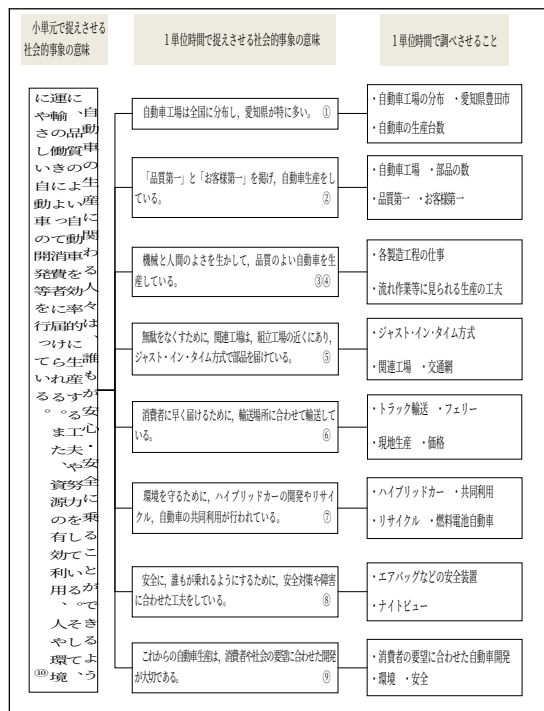
「自分の考えを文章にまとめる」の項目が4.2%となっており、言語活動が十分であるとは言えない状況である。

3 授業改善のポイント

平成25年度鹿児島学習定着度調査結果の分析も踏まえ、授業改善のポイントとして、「獲得させたい学習内容の明確化」、「社会的事象に対する自分の考えを書く活動の工夫」の2点を挙げたい。

(1) 獲得させたい学習内容の明確化

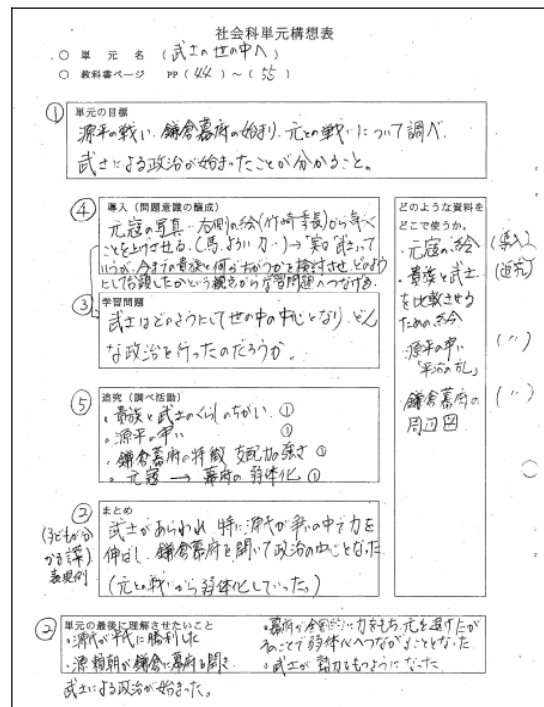
獲得させたい学習内容を明確にするためには、「解説」に示された内容について、資料3のように、児童に捉えさせたい内容を吟味し、どのような順序で捉えさせていくかといった配列等を考えるなどして構造的に示すとよい。このことにより、単元或いは1単位時間の授業において児童に考えさせることが明確になる。



※ 鹿児島県総合教育センター平成25年度長期研修研究報告書
(枕崎市立立神小学校 教諭 中村勝也) より引用

資料3 学習内容の構造図 (例)

獲得させたい学習内容を明確にしたなら、単元構想表などを活用して、単元で獲得する学習内容を基に、児童のまとめの表現例や学習問題を想定しておくことで、授業において具体化を図ることができる（資料4）。



資料4 単元構想表 (例)

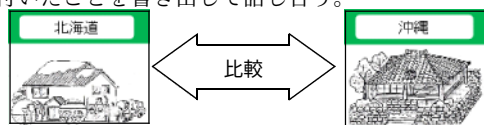
(2) 社会的事象に対する自分の考えを書く活動の工夫

社会科における思考力・判断力・表現力については、「単元の学習問題や学習計画を作る見通しの場面」や「調べたことを基にして、単元の学習問題をまとめるなど、社会的事象の意味を考える場面」で発揮されることが求められている。説明、論述等、根拠を明確にして自分の考えを書くという言語活動は、このような場面において有効である。特に、問題解決的な学習の見通しと振り返りにおいて、自分の考えを書く活動は、社会的な思考力・判断力を伸ばすことにつながる。

4 社会科における思考力・判断力・表現力を育成する手立て

社会科における思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善のポイントとして、「自分の考えを書く活動の工夫」が挙げられる，資料5のように，第5学年の指導例で述べる。

- 1 寒い地方と暖かい地方の住居の様子を比較し，気付いたことを書き出して話し合う。



- 2 学習問題をつくる。

日本の気候には，どのような特色があるのだろうか。

- 3 6つの気候帯の代表的な都市の気候の特色を予想して書く。 ※ 視点…地形，季節風，位置など
- 4 日本各地の気候と地形の様子について，予想したことが正しいか雨温図等の資料を用いて調べる。
- 5 調べたことを基に，日本の気候の特色について，考えたことをキーワードを使ってまとめる。

日本の気候帯は，気候や降水量によって，大きく6つの気候帯に分けることができる。それぞれの地域の気候には，土地の形や季節風，台風などが影響している。

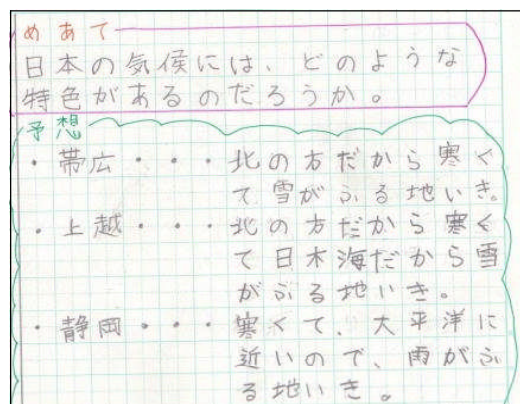
※ 薩摩川内市立可愛小学校教諭 宇都克博の実践を基に作成。

資料5 第5学年「日本の気候の特色」の指導例

問題解決的な学習においては，単元や単位時間の見通しをもたせる場面で，提示された社会的事象を基にして学習問題を作る。その際，学習問題については，予想を立て，結果を類推して自分なりの考えを書く活動を行ってから調べ始めさせたい。学習問題について予想する場面は，児童が既習事項や生活経験を基に考えることができる大切な思考場面でもある。

資料6のように，日本のどの地域がどの

ような気候であるのかを予想して書かせることで，児童は，既習経験や生活経験に照らして考え，問題意識を持続して調べることができる。



資料6 予想したことを書いた児童のノート例

なお，気候の特色を予想させる際には，例えば，「地形（標高）」，「季節風」，「位置（方位）」というように，考える手掛かりとなる視点を与えると児童は書き易くなる。

これまで述べてきたとおり，児童の思考力・判断力・表現力を高めるためには，問題解決的な学習の中で，学習問題の予想や説明を書かせるなど，見通しや振り返りの場面で書く活動を充実させることが必要である。その際，学習内容の構造図や単元構想表等を活用して，事前に児童の表現例を想定しておくと，さらに効果的である。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』平成20年
- 北 俊夫著『社会科学力をつくる「知識の構造図」』平成23年，明治図書
- 澤井 陽介，中田 正弘著『ステップ解説社会科授業の作り方』平成26年，東洋館出版社
- 鹿児島県総合教育センター『長期研修研究報告書（教諭 中村勝也）』平成25年（教科教育研修課）